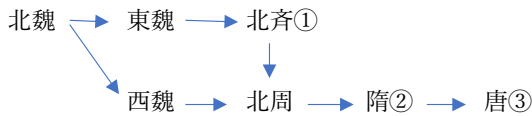


### 中国の歴史書と“正史”の論理

#### 北魏王朝の歴史書

- ①『魏書』 北齊の魏収 東魏を正統とする 現存
- ②『魏書』 隋の魏澹 西魏を正統とする 散逸 『日本国見在書目録』9世紀末
- ③『後魏書』唐の張太素 西魏を正統とする 散逸



※みずからの王朝の正統性を示すために歴史書は書かれる。

#### 魏収『魏書』

##### 巻1、序紀 拓跋部の起源から北魏建国までの発展の歴史

むかし黄帝に子が 25 人いて、あるものは中華に住み、あるものは夷狄の地に住んだ。昌意の末子は北方の地に封じられたが、その国に大鮮卑山があったことからそれを名前とした。その後、代々部族長となり、幽都の北の茫漠とした土地を支配し、家畜とともに移動し、狩猟を生業とした。純朴な習俗で、簡便を文化とし、文字はなく、木に刻んで契約を交わした。彼らの歴史は人づてに伝授されたが、それは史官の記録のようであった。黄帝は土徳の王であるが、北方では土地を「托」、王を「跋」ということから「托跋氏」と称した。

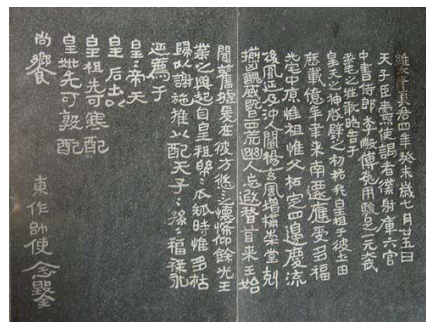
中華民族の祖である黄帝の子孫とする  
大鮮卑山に住んだ鮮卑であるとする  
黄帝が土徳の王であることから拓跋氏と称した

※ 中華の正統性と北方民族の正統性を標榜

#### 遊牧的要素の削除

君主号 可汗(可寒) カガン・可敦カトン

太武帝の太平真君四年(443年)の碑文「嘎仙洞碑文」に記されるが、『魏書』礼志では碑文と同じ文章を掲載しながら部分的に変更・削除されていて、可寒・可敦は削除されている。



## 官職

文成帝の和平二年（461年）の「皇帝南巡之碑」  
内行阿干・内行内小・羽真などの官職名が見える。

### 『南齊書』魏虜伝

國中呼内左右為「直真」，外左右為「烏矮真」，曹局文書吏為「比德真」，檐衣人為「樸大真」，帶仗人為「胡洛真」，通事人為「乞萬真」，守門人為「可薄真」，偽臺乘驛賤人為「拂竹真」，諸州乘驛人為「咸真」，殺人者為「契害真」，為主出受辭人為「折潰真」，貴人作食人為「附真」。三公貴人，通謂之「羊真」。佛狸置三公、太宰、尚書令、僕射、侍中，與太子共決國事。殿中尚書知殿内兵馬倉庫，樂部尚書知伎樂及角史伍伯，駕部尚書知牛馬驢騾，南部尚書知南邊州郡，北部尚書知北邊州郡。又有俟勳地何，比尚書；莫堤，比刺史；郁若，比二千石；受別官比諸侯。諸曹府有倉庫，悉置比官，皆使通虜漢語，以為傳驛。蘭臺置中丞御史，知城内事。又置九豆和官，宮城三里内民戶籍不屬諸軍戍者，悉屬之。

～真＝内朝官 可汗の側近官

モンゴルのケシクテン

～赤（チ） 比德真＝ビチクチ 胡洛真＝コルチ

殿中尚書・樂部尚書・駕部尚書・南部尚書・北部尚書＝中央官

俟勳地何・莫堤・郁若＝地方官

九豆和官＝首都居住民

「元菟墓誌」の俟勳（シキン）突厥の俟斤、遼の夷離董、金の移里董部族を率いる者の称号＝部族長

※『魏書』ではほぼ見られない。または漢語に変更されている。

内行阿干→内行長 内行内小→侍御中散 俟勳→部大人

## まとめ

北齊で編纂された魏取『魏書』は、北魏孝文帝の「漢化政策」を継承する東魏・北齊の立場で書かれているため、北魏が鮮卑であることよりも、中華王朝であることを全面に押し出している。そのため北魏の鮮卑である部分、胡族体制が見えにくくなっている。碑文や墓誌などの同時代史料を用いることで、正史の論理を打破し、真の姿にせまることができる。